

「グローバルCOEプログラム」中間評価 現地調査実施要領（案）

（平成 22 年 月 日
グローバルCOEプログラム委員会）

I. 調査の概要

1. 目的

現地調査は、評価委員が拠点現地に赴き、関係者との質疑応答及び研究現場の視察等を行うことにより、当該拠点の現状等を把握し、評価に資することを目的とする。

2. 実施主体

実施主体は、独立行政法人日本学術振興会グローバルCOEプログラム委員会分野別審査・評価部会とする。

3. 対象となる拠点

対象は、分野別審査・評価部会における書面及びヒアリング・合議評価により、現地調査が必要と判断された拠点とする。

4. 実施方法

調査者が現地に赴き、拠点より、書面及びヒアリング・合議評価に基づき事前を示す質問事項を中心に、拠点形成の進捗状況の詳細等についての説明を受けるとともに、研究現場を視察し、意見交換を行う。

5. 参加者

[調査者]

分野別審査・評価部会委員を中心とする数名で編成するグループ

[拠点]

- ・拠点リーダー
- ・出席可能な事業推進担当者
- ・COE経費で雇用されていたRA等若手研究者（大学院博士後期課程学生を含む）（5名程度）
- ・当該拠点事務局職員（若干名）

6. 期間

1日（3時間程度）

7. 実施項目及び内容

- ① 拠点リーダー及び事業推進担当者からのヒアリング・質疑応答（90分程度）
調査者は、拠点リーダーから、事前に提示した質問事項への回答についての説明を受け、その内容を基に、他の事業推進担当者を交え、質疑応答を行う。
- ② 若手研究者との面談（30分程度）
調査者は、若手研究者との質疑応答により、実際の教育研究活動の状況等を把握する。
- ③ 研究現場・施設等の視察（30分程度）
調査者は、拠点からの説明を受けながら、研究現場等の視察をし、研究環境等の調査を行う。
- ④ その他、調査者が必要と判断する事項
- ⑤ 講評
調査リーダーは、調査終了時に講評する。

II. 調査実施後

1. 調査者は、調査によっても明らかとならなかった点、あるいは新たに生じた不明点等のために、必要に応じて書面による質疑応答を実施することができる。
2. 調査リーダーは、その結果をまとめ、別紙の報告書を作成し、分野別審査・評価部会に報告する。

III. 現地調査スケジュール（例）

以下のスケジュールは一例であり、実際は調査内容等により異なる。

≪14～17時が調査時間の場合≫

※各事項には移動時間も含む。

	事 項	所要時間
13:45	調査者、拠点到着	-
13:45～14:00	打ち合わせ（調査者のみ）	15分
14:00～15:30	拠点リーダー及び事業推進担当者からのヒアリング・質疑応答	90分
15:30～16:00	若手研究者との面談	30分
16:00～16:35	研究現場・施設等の視察	35分
16:35～16:50	打ち合わせ（調査者のみ）	15分
16:50～17:00	調査リーダーによる講評	10分
17:00	現地調査終了	-

「グローバルCOEプログラム」中間評価 現地調査報告書（案）

[分野名：] 作成者 _____

機関名・専攻等名		拠点番号	
拠点のプログラム名称			
拠点リーダー名			
〔調査者による報告事項及び意見等〕			
(報告事項) 現地調査により、書面及びヒアリングにおける疑問点等がどのように明らかになったか。また、ヒアリング評価後に行われた「総括評価」についてどのようにお考えかお示してください。			
(特記事項：大学限り)			
〈留意事項〉			
〈参考意見〉			
〈その他（経費面等）〉			